聖徳大学言語文化研究所主催

参加費無料

英米文学の名作を読むⅥ
シンポジウム

日時 平成30年3月24日(土)
13:00～15:00

定員 70名
事前申込不要

会場 聖徳大学生涯学習社会貢献センター
(聖徳大学10号館)12階
千葉県松戸市松戸1169
JR常磐線・新京成線「松戸駅」下車
東口徒歩1分

司会 原 公章(元日本大学教授)

演題

『L・ハーン』の怪奇文学
―「おしどり」と「雪女」を巡って

発表者

藤井 繁
(聖徳大学名誉教授)

要旨

ハーンの怪奇文学では、女性によって糾弾される男性を描いている。そして、物語の世界では、掟(禁忌)は破られるために設定されている。いつも女性が男性を裁く結末を準備するために、最初に、掟が明示されるのである。それを作品に即して検討する。

演題

『デイヴィッド・コパーフィールド』再考

発表者

天野 暁子
(聖徳大学兼任講師)

要旨

『デイヴィッド・コパーフィールド』において、子どもの「無垢」を信じながら、その信頼は女性には全面的には向けられてはおらず、伯母ベッツィーのみがこの作品の他の女性たちとは異なり、自己主張をする女性して描かれているなど、ディケンズの女性への視点は、この作品の中では、最後まで矛盾したままである。これら女性への視点について考察したい。

演題

D.H.ロレンス『狐』再考
―マーチの視点を中心に

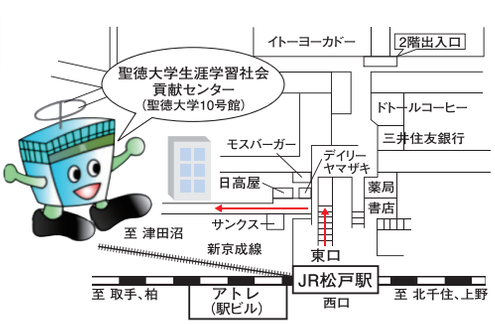
発表者

武田 久子
(聖徳大学兼任講師)

要旨

以前、主人公ヘンリーとマーチの関係性における、ジェンダー的観点での「男らしさ」と「女らしさ」という問題を取り上げたが、今発表では切り口を少し変え、マーチの視点を中心に考察する。マーチの、ときには影のようで受動的なその内面を掘り下げ、この物語の登場人物たちの関係性に別の解釈を加える可能性を探りたい。

お問い合わせ

聖徳大学言語文化研究所(知財戦略課)
〒271-8555　千葉県松戸市岩瀬 550
電話:047-365-1111(大代表)
http://www.seitoku.ac.jp/chizai/event/

会場アクセス